

2023 年度 日本医療検査科学会 第 2 回生理検査委員会  
議事録

日時:2023 年 10 月 8 日(日) 14 時 00 分 ~

場所: パシフィコ横浜 会議室 513 号室 (WEB 併用)

参加者(敬称略・順不同): 代田(委員長)、古川、横山、小笠原、朝日、大門、東條、田邊、眞崎(以上現地参加)、竹内、尾本(Web 参加)

欠席者: なし

報告事項

1. 前回議事録につき確認された。特に訂正ほか意見はなかった。
2. 新任委員として、横山 直之先生より紹介・ご挨拶があった。
3. 2023 年 呼吸器分野の追加アンケートについて  
48 施設から回答を頂き、技術セミナーにおいて情報共有したことが報告された。
4. 心電図シミュレータの巡回配布について  
18 施設からのデータを、技術セミナーにおいて情報共有したことが報告された。
5. 脳波波形ジェネレータを用いた試みについて  
単施設での検討結果を、技術セミナーにおいて情報共有したことが報告された。

審議事項

1. 委員会活動方針について
  - 1) 委員会アンケートについて
    - ① 次回予定について  
初回(2020 年)実施後に ISO 15189 取得施設が急増していたため、2022 年に追加アンケートを実施した。その後の傾向を踏まえ次回の全体アンケートは **2025 年** 予定とすることが確認された。
    - ② 内容について  
項目の追加・整理などがあれば適宜メール審議などを行うことを確認した。
  - 2) シミュレータ等を用いた内部・外部精度管理について
    - ① 心電図でのシミュレータ巡回配布の今後について  
現状 22 施設まで巡回できており、30 施設を目標にしていることが報告された。次年度さらに解析結果を報告する・他学会でも情報共有するなどの予定が示された。  
現在までの結果について、波高など計測結果のばらつきが大きい項目があることが共有され、原因の究明・改善策などについて議論された。
    - ② 神経生理分野でのシミュレータの扱いについて  
今年度は単施設での試用であったため、次年度に向け巡回方法を検討してゆくことが提案された。
    - ③ 呼吸機能分野  
外部精度管理の代替えアプローチにつき、具体的な議論には至っていない。較正シリンジをうまく活用した方法などが構築できないか考えていることが共有された。
    - ④ 超音波分野  
心エコーのように計測値が重要な分野がある反面、腹部エコーでは計測よりも画が描出できるかが重要であるなど、臓器により求められる精度管理が異なる点に注意が必要であることが確認された。

心エコーについては、日本心エコー図学会より「心エコー図検査に使用する超音波診断装置の管理に関する手引き」が作成されており、本委員会でも活用できると良いのではとの提案があった。

ほか、本委員会のアンケートは ISO 15189 取得施設に焦点を当てている点で独自性がある・心エコーの計測値については AI を用いた手法が数多く報告されるようになっており対応が必要ではないか・超音波検査においては機器の精度管理もさることながら要員に関する部分も重要である、などの意見が挙げられた。

3) 分野別の活動について

① 今後の WG 対応について。

ゆくゆくは委員会内に認定四分野ごとの WG を立ち上げて活動してゆくことが望ましいが、まずは本委員会の委員増加を目指すことが確認された。

4) 活動内容について

① 2024 年度第一回委員会は例年通り春季セミナーにあわせて開催予定。

② 新規委員の募集:2023セミナー参加者アンケートなどをもとに各分野新規委員を募集してゆくことが合意された。

2. その他

竹内委員より、本務先のご退職にともない委員も辞任される意向が表明され、承認された。委員会より、これまでのご尽力に対し謝意が示された。